



平成29年9月5日発行
文京区本郷台中学校
相談室



今年の夏休みは初めてのことばかり、東京にあんなに大きな雹(ひょう)が降ったのを初めて見ました。私は目黒で育ったので、花火といえば多摩川の花火大会です。去年は雨だったのだけれど、花火打ち上げのときから雨が上がりました。今年も、中止になりました。席を取っていた友だちは、大変だったとのこと。

さて、みなさんは、どんな夏休みを過ごしましたか？
きっと雨にも負けず、思い思いの夏休みを過ごしたと思います。
私は毎年、夏休みに研修を受けます。今年の夏休みもいくつかの研修を受けました。久しぶりに会った仲間もいれば、新しい人との出会いもあります。

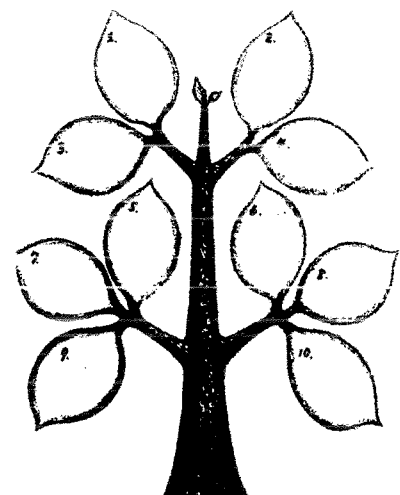
ひとつの研修では、毎年福島の中学校の先生方が参加してくれます。東日本大震災から、日本ではたくさんの災害に見舞われました。熊本地震、九州北部豪雨、日々の生活が一変することは大変なことだと思います。福島の生徒さんは、悩み、傷つきながらも、今みなさんと同じような中学生生活を送っている様子が語られました。

その研修は、ワークの研修です。ここでいうワークとは作業を体験しながら、問題を解決する力・社会で生きていくうえで必要なスキルを育むための方法です。
福島のいくつかの中学校で、自分の木というワークをしていました。自分の木というワークは、友だちと質問をしながら自分の木を完成させていくものです。
質問は10個、質問内容は決められていますが、その中に、「今一番大切なものは?」「震災から学んだことは?」がありました。

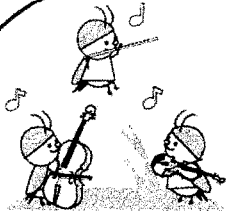
あなただったら、どんな答えをしますか？
震災を経験した福島の生徒さんは「今一番大切なものは?」には、「命」「食べ物」「普通の生活」「家族」「友だち」などと答えたそうです。また「震災で学んだことは?」の答えには、「絆の大切さ」「感謝すること」「家族の大切さ」「友だちの大切さ」など、人間関係に関するものが多かったそうです。

参照 フレンドシップ・サポート研修会
(2017. 8. 2~4 於国立オリンピック記念 青少年総合センター)

自分の木



裏面もあります



ココロ ココロ 一〇×モ

自我同一性(identity)

自我同一性=アイデンティティとは、自分は何者であり、どこにいて、これからどういう役割と目標をめざすのかということを実感できることをいいます。

実はアイデンティティの確立をする時期は、青年期(13歳～22歳)と言われています。

心理学者エリクソン(E.H Erikson)は、個人の人生における発達段階を8つの段階に分けて、それぞれの段階で達成すべき発達課題を設定しました。

エリクソンは青年期に達成されなければならないとされる課題を、自我同一性の確立としました。自我同一性の確立とは、以下の3つを持てることです。

1、自己の斉一性

自分が理解する自分の姿は他者からも同じ様に認められ、「自分はほかでもないこの自分である」と思えること。

2、時間的な連続性と一貫性

過去・現在・そして将来にわたって自己は一貫し、不変であるという確信が持てること。

3、帰属性

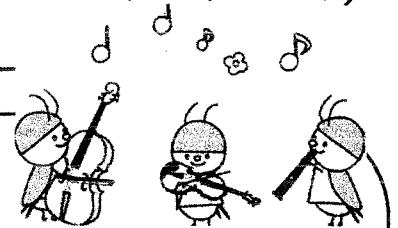
自分がどこに行こうとしているのか、どこに所属しているのか、わかっているという感覚。

また、エリクソンは、青年期の時代を「心理・社会的モラトリアム」と呼びました。

モラトリアムは、経済用語で支払猶予を意味します。

自我同一性の確立のための時期として、社会からの義務や責任を最小限にしてでも、悩みぬいたうえで、自分自身を見出していくことが何よりも大切と考えたからです。

参照 手にとるように発達心理学がわかる本、小野寺敦子著、2009、かんき出版



保護者の皆様へ

相談室では、保護者の皆様のご相談にも応じています。

お子様についてご心配なことがありましたら、どのようなことでも結構ですので、遠慮なくご相談ください。

カウンセラー在勤日には、カウンセラーに直接予約をお入れください。

カウンセラー不在時は、副校長までご連絡をお入れください。

以下の電話番号は相談室専用となっています。カウンセラーが不在の場合はお手数でも学校の代表番号におかけ直してください。

スクールカウンセラー 中嶋 真保子(月・金)
江村 侯子 (火)

相談室専用電話番号 03-3881-2661

本郷台中学校電話番号 03-3811-2571

